



# つながり、支え合い、ともに地域を作る ～外国につながる子どもの学習支援～

(公財)西宮市国際交流協会企画調整チーム長・日本語教育コーディネーター 多文化共生マネージャー2期(第23号) 下村 成子

## 日本語学習支援

西宮市の人口は48万7,818人、うち外国人は6,649人で、外国人の占める割合は1.36%(2019年3月現在)となり、ベトナムや中国などの外国人住民が増加しています。86か国の多様な国籍、多様な背景を持つ外国人の方々が市内に散住し、外国につながる子どもも増加傾向にあります。

1999年より西宮市国際交流協会は、当協会のボランティアグループ「西宮日本語ボランティアの会」と協働で市内の公立小・中学校へ通う子どもとその親のための日本語学習教室「日本語なかよしひろば」を実施しています。この教室は毎週1回、放課後、当協会で開催し、文型・文法、生活言語を指導しています。

## 教科学習支援

西宮市は文教住宅都市であり、6つの大学と3つの短期大学があります。

西宮市国際交流協会は、大学への防災出前教室、留学生対象の日本語スピーチ大会をはじめ、「わーど・にじいろ・まつり」など日頃より大学と連携した事業も実施しています。

関西学院大学で教育委員会などと協働で外国につながる子どもの支援に関するパネルディスカッションを実施したことをきっかけに、大学生も子どもの支援に、高い関心を持っていることを知りました。その縁で大学の先生や学生に子どもの教科学習支援活動をお願いしたところ、協力していただけることになりました。続く2017年春には武庫川女子大学の先生から、外国につながる子どもの支援について何かできることはないかというご相談があり、一気に事業実施の運びとなりました。これが教科学習支援教室です。この教室は学生により「ふでばこ」と名付けられました。「ふでばこの中にはいろいろな道具が入って、それぞれ役割があり多様である。そん

なふでばこのように、いろいろな個性を持った子どもたちが集まって、それぞれの良さを育む場でありたい」という思いからです。

「ふでばこ」は市の中心部と南部の2か所で開催しています。

市の中心部は、関西学院大学教育学部の学生が主体の教室で、南部は、武庫川女子大学文学部の学生が主体となった教室です。



「ふでばこ」で学ぶ子どもたち

内容は教室ごとに学生リーダーのもと、子どもたちの状況を見ながら、学生同士で協議し決めていきます。音読、漢字の書き取りなどの宿題や作文、算数などの苦手な教科を勉強します。形式はいずれの教室も原則マンツーマンです。

そして、教科学習支援だけでなく、日ごろは外国につながる子どもが学校に一人、学年に一人などの孤立しがちな状況を踏まえ、ゲームや工作を通して子どもの気持ちをほぐしたり、子ども同士の仲間づくりや力づけも行っています。例えば小学生は言葉以外で交流ができ、身体を使うようなジェスチャーゲーム、折紙で作った風船遊びをはじめ、子ども同士のコミュニケーションを図るために、相互に教え合う機会となるよう行事や季節に絡め、鯉のぼりづくり、リースデコレーションなどの工作を行うこともあります。中学生は、学校で学習している百人一首のかかるた取りをすることもあります。

また、保護者の希望で、学校のお知らせ文などの説明や行政手続きの記入のお手伝いを私がすることもあります。子どもも保護者も居心地が良いように自由な雰囲気の教室づくりをモットーにしています。

学生主体の教室ですが、場の確保、保護者、学校、大学、教育委員会、行政、企業など関係機関との調整、募集、予算（JR 教室）、特に教室に関する助言や保護者などからの相談は、協会の役割として行っています。この教室活動を通して子どもにとって大学生がより身近なロールモデルとなり、子どもの将来の選択肢の広がりや学習意欲につながり、また大学生にとっても、外国につながる子どもや多文化に対する理解を深めることにより近い将来、学校の先生、会社員など社会人になったときに、ここでの経験が糧になればと思います。子どもが大学生に心を開く早さに嬉しい驚きと更なる効果を期待しています。



苦手な教科も頑張る参加者



松ぼっくりのクリスマスツリーづくり



紙コップのお雛様を作る。目の色もカラフル！



指導者も笑顔

## 多文化共生マネージャーとして

2006年、第2期の「多文化共生マネージャー養成コース」で地域の課題解決のため、事業の企画立案などを学ばせていただき、その後、ラジオ外国語放送事業、災害時の外国人支援事業を立ち上げました。また、「多文化共生マネージャーのスキルアップ」研修では、幅広いネットワークの重要性を知ることができました。多文化共生の地域づくりのために、地域のニーズを踏まえ、どういつながりが必要かということを考えながら事業を進めています。さらに多文化共生マネージャーのつながりで他地域の取り組みをお聞きしたり、助言をいただくこともできます。

その成果の一部が教科学習支援事業の立ち上げです。スタートしたばかりで事業としてはまだまだ課題もありますが、将来、子どもたちや若年層がより良い多文化共生社会の実現を担ってくれることを願い、私自身一人ひとりと向き合いながら、この輪がもっと広がるよう努めて参りたいと思います。